



「ユニオンファンド」の「月次レポート」(2010年1月12日作成)をお届けします。

運用状況のご報告

ユニオンファンド概況



ファンドマネージャー コメント

投資環境と見通し

ユニオンファンドは「コムジェストF」を通じて新興国に投資しています。

2009年11月に「コムジェストF」の運用責任者とミーティングを行いましたので、その骨子をご報告いたします。

(1) 運用実績について

2009年2月までの運用実績・・・市場を凌駕できた。
2009年3月以降の運用実績・・・市場にやや劣後した。

- ・最近のエマージング市場は50年来の高い上昇であり、「金融・素材・エネルギー」が牽引。
- ・コムジェストFは次のような「主たる投資銘柄」に投資を続けており、最近の牽引・上昇銘柄をあまり保有していなかった。

「主たる投資銘柄」の特性

- ①定性面：飛び抜けて優れた事業を有する企業
- ・・・分かり易いビジネス、高い「参入障壁」＝強い「価格支配力」、健全な財務、潤沢なキャッシュフロー、株主重視の経営、誠実な嘘をつかない経営者

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

組入れファンドの内訳(組入比率は12/30付け)

ファンド名	主な地域	組入比率	目標組入比率	目標比
さわかみF	日本	約19%	20%	約-1%
キャピタルF	欧米	約20%	20%	約±0%
ハリスF	欧米	約19%	20%	約-1%
コムジェストF	エマージング	約39%	40%	約-1%
キャッシュ	—	約4%	—	約4%

②定量面：15%成長が期待できる企業

・「金融株・循環株（市況関連）」は「主たる投資銘柄」に該当しないため、保有比率は低めとなっている。今後もこのスタンスは変えない。（保有している金融株は不動産株のみ）

（2）運用に当たっての留意点とファンドの特徴

- ①市場で評判になる前の割安時点で投資し、人気化し割高となった時点では売却する様に努めている。
- ②資源・エネルギーなどが牽引する過熱相場では、市場の上昇に追従できないことが多い。
- ③逆に安定・弱気相場では、市場を上回ることが多い。

（3）今後の市場見通し

- ・銀行リスクが続いているため、世界の中央銀行は量的緩和を継続するであろう。
 - ・今回の財政刺激策は巨額・・・これまで10回のリセッションでは、平均GDP比3%の刺激策。今回は、GDP比30%の刺激策。
- ⇒ ◇短期的（今後6ヶ月）には世界中の株が上昇する可能性大。
◇しかし、長期的には先進国市場は低迷するのでは？
（財政赤字急拡大・人口減少→1人当たりの負担急増→全体の消費減少へ）

（4）長期的にはインフレへ

- ・世界の2大国「米国・中国」がマネーを大增発している。
 - ・世界は「脱不況」の観点から容認している。
- ⇒ 貨幣価値は目減りせざるを得ない。
・中国はインフレを警戒してドル債を減らし、世界中から「資源を買いだめ」している。

◆結果として

- ・新興国はインフレ（好況下の物価高）になりやすい・・・金利は上昇
人口増・需要増、資源高などにより物価が上昇
- ・先進国はスタグフレーション（不況下の物価高）に・・・「悪い」金利上昇
人口低迷・需要減。輸入物価上昇と巨額の国債借り換えが金利上昇圧力に

（5）新興国インフレに対するコムジレストファンドの対応

- ①インフレ下にあってはコスト増などにより企業業績が低迷し株価が値下がりしやすいため、キャッシュ比率を相対的に高める努力をする。
- ②上記「主たる投資銘柄」を中心に投資を続ける。
・・・「主たる投資銘柄」はインフレ下でも「強い価格支配力」を有することから「値上げ」により利益を確保できる可能性が高く、株価は相対的に下げ渋る場合が多い。

<ミーティング後の感想>

- ・物価上昇・金利上昇（インフレ）は企業業績にとって大敵ですが、マクロ環境の変化ですから逃れることはできません。
- ・「コムジレストF」の「主たる投資銘柄」は企業自らが生み出す「付加価値」に注目しています。自ら関与できない（＝他力本願的な）マクロ環境によって好調・不調が決まる「市況関連・循環株」とは一線を画しています。
- ・インフレ下でのマイナスを最小限に抑え次の飛躍期に備えるには、「コムジレストF」が考えている上記のような方策はベストに近いものだと思います。「コムジレストF」に投資しているユニオンファンドとしては心強い思いでいます。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 運用報告

■ ユニオンファンドは、

①「株式」に投資する ②「グローバル」に投資する ③インデックスでなく「アクティブ」に投資する、
ファンドの中から実績を挙げてきた4つのファンドに投資しています(ファンド・オブ・ファンズ)。

■ 地域別「目標」投資配分としては、世界の株式市場シェアに比べて「日本」と「エマージング」のウエイトを高めとし、「欧米」を低めとしています。

「日本」 : 低成長市場だが身近な精通した市場

「エマージング」: 伸び盛りの高成長市場

「欧米」 : 成熟した低成長市場

■ 世界の株式市場は景気回復を反映して堅調に推移しています。

出遅れていた日本株も、鳩山政権の成長戦略回帰・日銀の金融緩和加速などを受けて外国人買いが復活し、上昇軌道に戻ってきました。

■ 12月の基準価額推移・・・月初(12/1)に安値 12,306 円を付けた後、順調に上昇し、月末には高値の 13,386 円で終了しました。

■ 長期投資の観点からは“まだ割安な水準にある”と判断し、「強気」スタンスを継続しています。

12月中の組入れ比率は91～96%で推移し、平均94%、月末は96%となっています。

■ 今後の運用方針

● 今後の市況見通し

・現在の株式市場は「ドバイ・ショック」を乗り越え、上昇基調にあります。

・今後の懸念材料(リスク)は次の2点です。

①年後半からの「息切れ」リスク・・・これまでの回復は米国・中国などの巨額財政支出によるところ大です。

2010年までは大丈夫と思われそうですが、2011年には「財政息切れ＝景気二番底」のリスクがありますので、先読みする株式市場は今年後半以降が要注意と思われそうです。

②年後半からの「利上げ」リスク・・・①とは逆に、年後半から「民間による景気自律回復」が実現できた場合には「出口戦略＝金融引き締め＝利上げ」が図られることになり、株式市場には波乱要因となります。

・従って、2010年の市況見通しとしては、「年前半ジリ高、年後半要警戒」と考えています。

● 目標投資比率

長期投資の観点からは、まだ「投資妙味のあるタイミング」と認識しています。

しかし、「ドバイ・ショック」に観られるように短期的には上下にぶれる展開も予想されますので「目標投資比率」を引き続き「85～100%」とし、柔軟に対応していきます。

● 地域別目標投資比率

現在の「地域別目標投資比率」を維持します。

・・・日本:20%、欧米:40%、エマージング:40%

● ファンド選定

当面、現在の4つのファンドに投資していきます。

● ファンド別目標組入比率

現在の「ファンド別目標組入比率」を維持します。

⇒「さわかみF」:20%、「キャピタルF」:20%、「ハリスF」:20%、「コムジェストF」:約40%

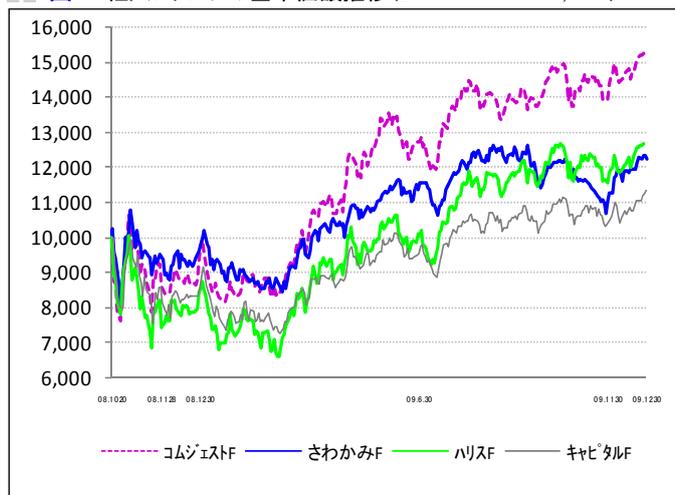
◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

「ユニオンファンド概況」補足コメント

■ 図1 組入ファンドの基準価額推移(2008. 10. 20=10,000)



>> 図1 基準価額推移

2009年3月以降海外3ファンドは概ね右肩上がり。「さわかみF」が11月大幅下落後12月回復。12月1ヶ月間の騰落率は次の通り。
 …「コムジェストF:9.3%」、「ハリスF:8.8%」、
 「さわかみF:15.5%」、「キャピタルF:9.2%」。

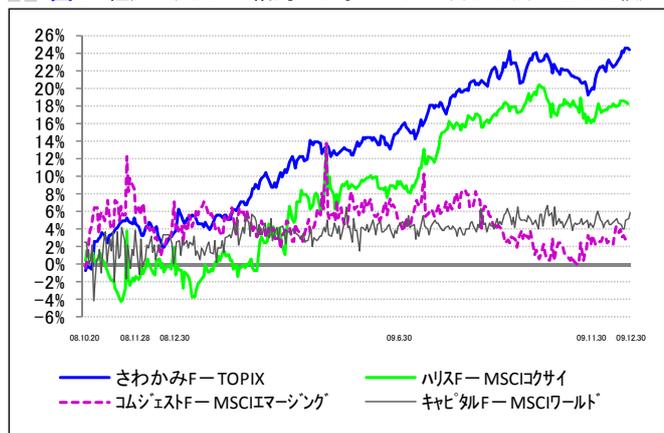
>> 図2 相対パフォーマンス

4ファンドともインデックスを上回るパフォーマンス。しかし、多少バラツキが出てきた。「さわかみF」……設定来では約25%凌駕。11月の劣後を12月に取り戻す。「ハリスF」……概ね約18%凌駕を維持。「キャピタルF」……安定的に4%~5%凌駕。「コムジェストF」……銘柄選択効果などから設定来で2~3%凌駕。安定株中心の「コムジェストF」はジリ高。しかし資源株関連などを中心とするエマージング株全体はそれ以上の上昇。相対では苦戦。

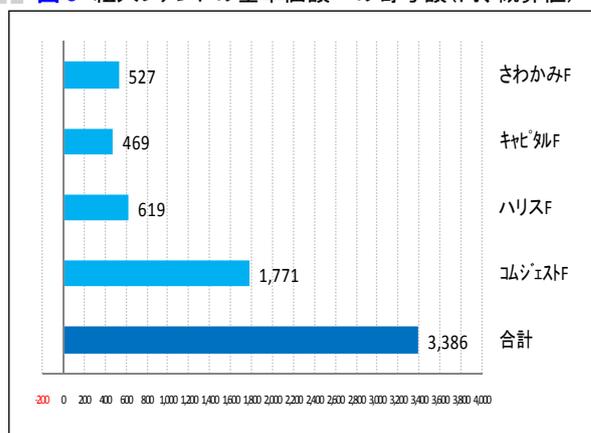
>> 図3 寄与額

12月末の基準価額が13,386円となっているため、3,386円の評価益に。その内訳を4ファンドに分解すると第3図の通り。4ファンドともプラス寄与。「コムジェストF」の貢献が一番大きい。

■ 図2 組入ファンドの相対パフォーマンス(インデックスとの比較)



■ 図3 組入ファンドの基準価額への寄与額(円、概算値)



>> 図4 時価総額シェア・目標投資比率

時価総額シェア…「エマージング」:08年10月を底に上昇基調。「欧米」:一貫して低下基調。「日本」:低下。

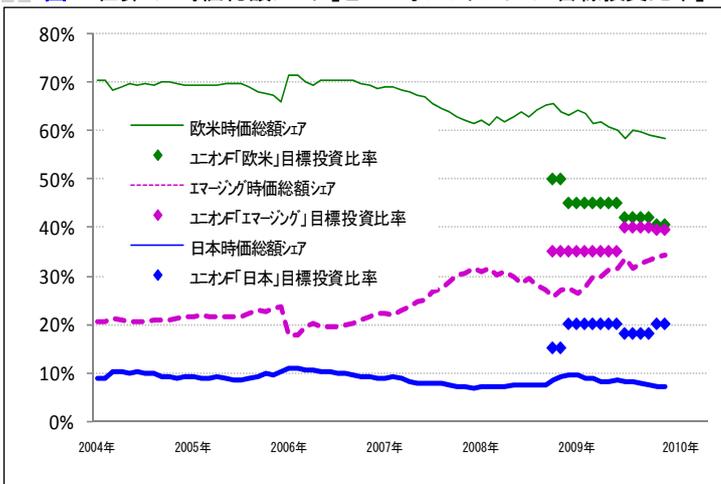
「地域別目標投資比率」

- 日本 :20%(シェア比+12%)
- 欧米 :40%(シェア比▲18%)
- エマージング:40%(シェア比+6%)



運用部長 (ファンドマネージャー)
 坂爪 久男

■ 図4 世界の「時価総額シェア」とユニオンファンドの「目標投資比率」



(出所)「時価総額シェア」:ユニオン投信株式会社調べ

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
 ◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

組入れ4ファンドの状況

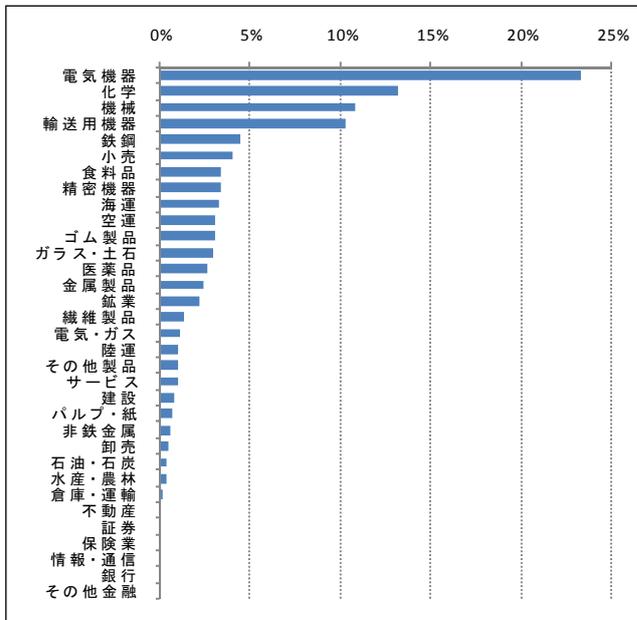
さわかみF（さわかみファンド）

株式組入上位10銘柄等

2009年12月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	リコー	3.5%	日本	電気機器	事務機大手
2	パナソニック	3.5%	日本	電気機器	総合家電首位
3	商船三井	3.3%	日本	海運	タンカー・LNG 船で世界一
4	セブン&アイ	2.9%	日本	小売	日本最大の小売グループ
5	全日本空輸	2.9%	日本	空輸	空運実質トップ
6	ブリヂストン	2.9%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位
7	花王	2.9%	日本	化学	トイレット紙首位
8	三菱重工業	2.6%	日本	機械	世界的総合重機メーカー
9	トヨタ自動車	2.3%	日本	輸送用機器	自動車世界トップ
10	SUMCO	2.2%	日本	金属製品	半導体用シリコンウエハー大手
上位10銘柄		28.8%			
その他154銘柄		68.6%			
キャッシュ		2.6%			

業種別構成比



業種：東証33業種

構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

>> ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆組入銘柄数は約160。約2年前のピーク約310銘柄に比べ半分にまで圧縮。
業種のメリハリを効かせることで個性あるポートフォリオを作り上げている。
- ◆具体的には、
 - (1) 電気機器、化学、機械、輸送用機器、鉄鋼、精密など「ものづくり」企業の比率大。
 - (2) 小売、食料品などの「生活関連」企業の比率大。
 - (3) 金融、通信、不動産、倉庫などの「内需型」企業の比率小。
- ◆引き続き中小型銘柄から大型・国際優良株へのシフトを進めている。
電機機器(リコー、パナソニックなど)、機械(三菱重工)などを買増し。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ キャピタルF (CIF グローバル・エクイティ・ファンドクラスA)

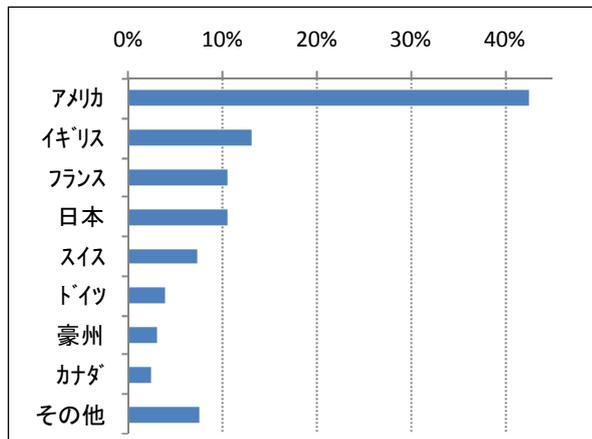
■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

2009 年 11 月末現在

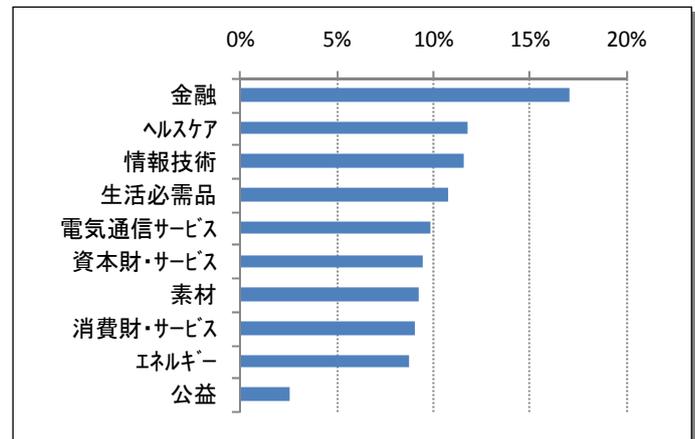
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	Royal Dutch Shell	2.5%	オランダ	エネルギー	石油ガス
2	PepsiCo	2.4%	アメリカ	生活必需品	飲料大手
3	Roche	2.3%	スイス	ヘルスケア	医薬品大手
4	Bouygues	2.0%	フランス	電気通信サービス	通信大手
5	HSBC	1.9%	イギリス	金融	世界有数の金融グループ
6	Merck	1.8%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品大手
7	Google	1.7%	アメリカ	消費財・サービス	世界最大のネット検索
8	KPN	1.5%	オランダ	電気通信サービス	通信大手
9	Target	1.5%	アメリカ	消費財・サービス	小売チェーン大手
10	Procter & Gamble	1.5%	アメリカ	生活必需品	家庭用品世界的大手
上位 10 銘柄		19.1%			
その他		78.4%			
キャッシュ		2.5%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

>> ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 日本を含む先進国に幅広く投資 (約 200 銘柄)。
- ◆ インデックスに対し大きな偏りをとらず、長期間の安定的な超過収益を狙うファンド。
- ◆ インデックスとの比較では、通信・素材・金融をオーバー、IT・エネルギー・生活必需品をアンダーウエイト。

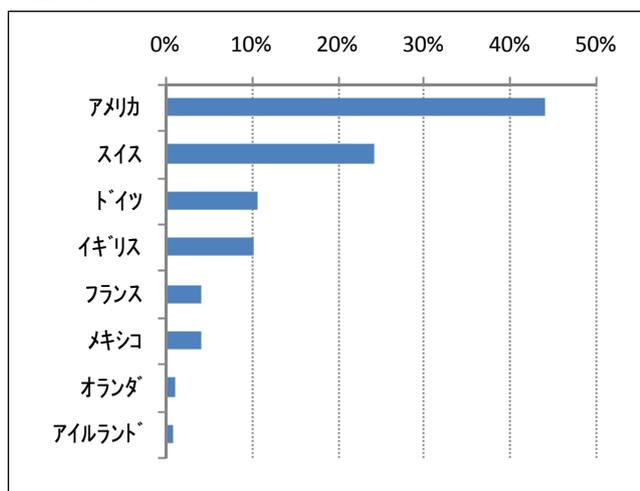
◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆ 当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
 ◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 グループ 2009 年 11 月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	INTEL	6.0%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー
2	HEWLETT PACKARD	4.3%	アメリカ	テクノロジー・ハード機器	コンピューター関連大手
3	FRANKLIN RESOURCES	3.5%	アメリカ	各種金融	資産運用(フランクリン テンプルトン)
4	BANK OF NEW YORK MELLON	3.5%	アメリカ	各種金融	金融大手
5	FINANCIERE RICHEMON	3.4%	スイス	耐久消費財・アパレル	高級ブランド・ラグジュアリー
6	ALLIANZ	3.3%	ドイツ	保険	総合保険大手
7	CARNIVAL	3.3%	アメリカ	消費財・サービス	クルーズ客船
8	ADECCO	3.3%	スイス	商業・専門サービス	人材派遣世界展開
9	SAP	3.2%	ドイツ	ソフトウェア・サービス	ソフトウェア世界展開
10	CATERPILLAR	3.1%	アメリカ	資本財	建設機械世界トップ
上位 10 銘柄		36.9%			
その他 31 銘柄		55.2%			
キャッシュ		7.9%			

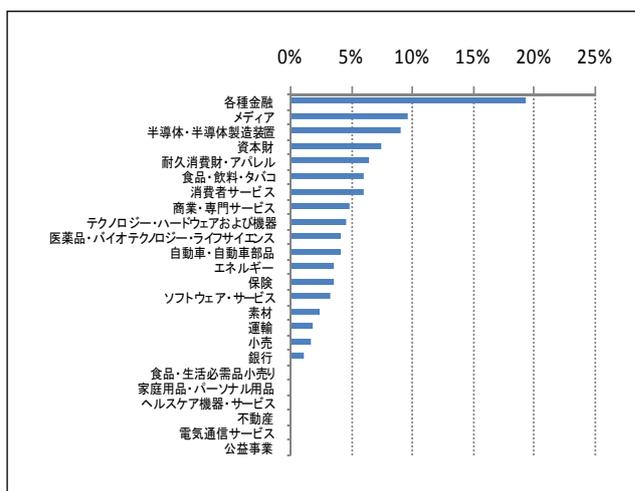
■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)

※2009 年 12 月末現在



業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 産業グループ
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 割安な 40 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。日本を除くグローバルに投資。
- ◆ 危機下で割安になっていた「金融」を 30%程度組入れていたが、株価上昇で割安感が薄れてきたことから 20%前半にまで引き下げ。
- ◆ それ以外のインデックスとの比較では、割安な「資本財」「消費財」をオーバー、割高な「エネルギー」「公益」をアンダーウエイト。最近数カ月は大きな変化なし。

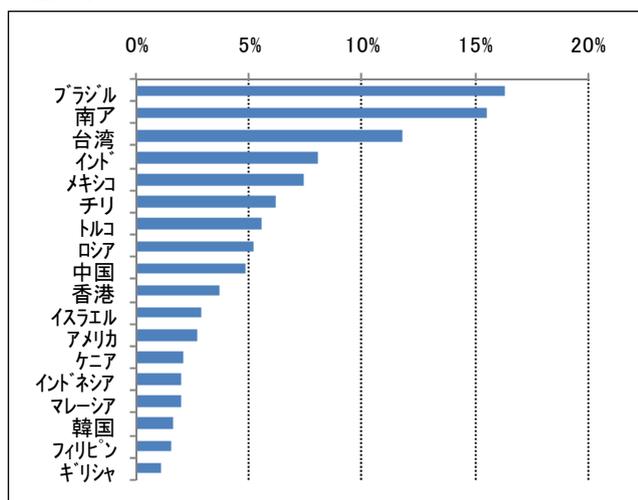
◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター 2009 年 12 月末現在

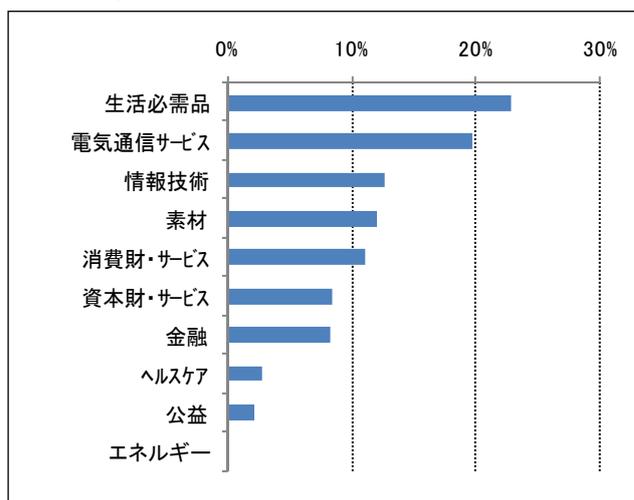
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	4.6%	台湾	情報技術	半導体メーカー
2	MTN	4.4%	南ア	電気通信サービス	携帯電話
3	JBS	3.7%	ブラジル	生活必需品	食肉加工
4	ANGLOGOLD ASHANTI	3.3%	南ア	素材	金鉱開発
5	COCA-COLA ICECEK URETIM	3.3%	トルコ	生活必需品	ボトラー
6	GOLD FIELDS	3.1%	南ア	素材	金鉱開発
7	TIM PARTICIPACOES	3.0%	ブラジル	電気通信サービス	携帯電話
8	MOBILE TELESYSTEMS	3.0%	ロシア	電気通信サービス	携帯電話
9	HTC	3.0%	台湾	情報技術	携帯端末
10	BHARTI AIRTEL	2.9%	インド	電気通信サービス	携帯電話
	上位 10 銘柄	29.7%			
	その他 30 銘柄	69.0%			
	キャッシュ	1.3%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 新興国の割安な 50 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。
- ◆ 財務体質健全、積極的な情報開示、株価割安な企業に選別投資。
- ◆ 高成長新興国中心のポートフォリオ。
- ◆ 衣食住・インフラ生活関連銘柄のウエイトが高い。
- ◆ 新興国市場の高値警戒感から安定成長ができる情報技術・通信関連などにシフト中。
- ◆ 新興国の携帯電話セクターは成長産業にもかかわらず、先進国の成熟・低成長イメージから株価割安。上位に南ア・ブラジル・ロシア・台湾・インドの携帯関連銘柄が並ぶ。

◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

ユニオンファンド(組入4ファンド トータル)の状況

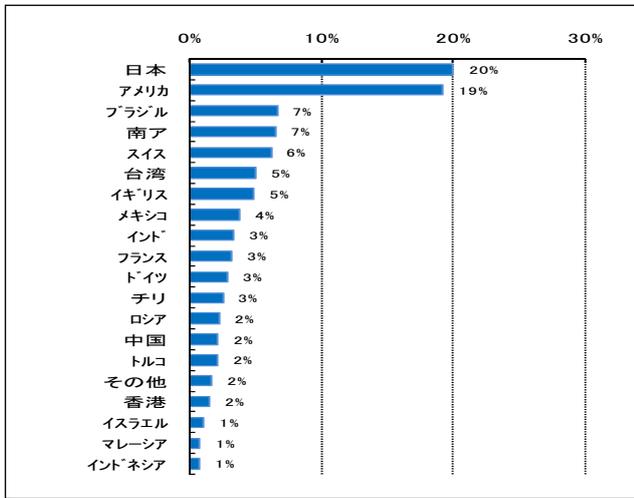
■株式組入上位 20 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

2009 年 11 月末現在

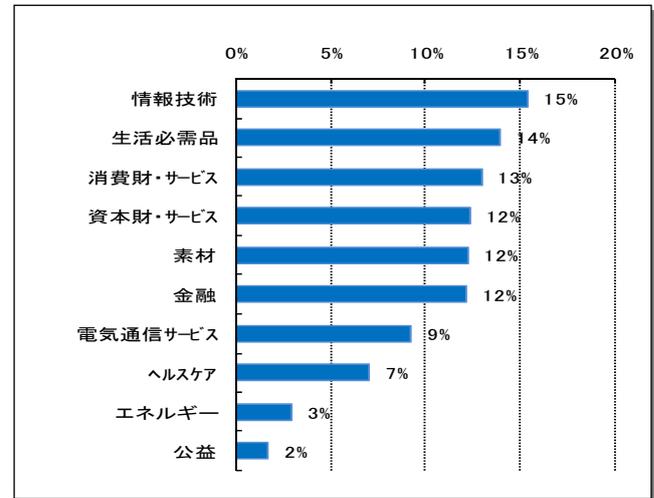
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等	主要組入F
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	1.9%	台湾	情報技術	半導体メーカー	コムジェストF
2	ANGLOGOLD ASHANTI	1.6%	南ア	素材	金鉱開発	コムジェストF
3	GOLD FIELDS	1.5%	南ア	素材	金鉱開発	コムジェストF
4	JBS	1.5%	ブラジル	生活必需品	食肉加工	コムジェストF
5	MTN	1.4%	南ア	電気通信サービス	携帯電話	コムジェストF
6	HTC	1.3%	台湾	情報技術	携帯端末	コムジェストF
7	MOBILE TELESYSTEMS	1.3%	ロシア	電気通信サービス	携帯電話	コムジェストF
8	GRUPO TELEV	1.2%	メキシコ	消費財・サービス	メディア	コムジェストF
9	TIM PARTICIPACOES	1.2%	ブラジル	電気通信サービス	携帯電話	コムジェストF
10	CHINA LIFE INSURANCE	1.2%	中国	金融	生命保険	コムジェストF
11	INTEL	1.1%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー	ハリスF
12	HEWLETT PACKARD	0.8%	アメリカ	テクノロジー・ハード機器	コンピューター関連大手	ハリスF
13	FRANKLIN RESOURCES	0.7%	アメリカ	各種金融	資産運用(フランクリン テンプルトン)	ハリスF
14	BANK OF NEW YORK MELLON	0.7%	アメリカ	各種金融	金融大手	ハリスF
15	FINANCIERE RICHEMON	0.6%	スイス	耐久消費財・アパレル	高級ブランド・ラグジュアリー	ハリスF
16	商船三井	0.6%	日本	海運	タンカー・LNG 船で世界一	さわかみF
17	ALLIANZ	0.6%	ドイツ	保険	総合保険大手	ハリスF
18	CARNIVAL	0.6%	アメリカ	消費財・サービス	クルーズ客船	ハリスF
19	ADECCO	0.6%	スイス	商業・専門サービス	人材派遣世界展開	ハリスF
20	SAP	0.6%	ドイツ	ソフトウェア・サービス	ソフトウェア世界展開	ハリスF
	上位 20 銘柄	21.1%	(注)各組入F開示資料に基づくランキング			
	その他銘柄	72.2%				
	キャッシュ	12.3%				

■国別構成比 (上位 20 カ国)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■業種別構成比



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

>> コメント

- ☆組入銘柄数: 約 500、投資国数: 約 30 カ国。
- ☆組入上位 20 銘柄明細: 40 銘柄程度に絞り込んでいる「コムジェストF」「ハリスF」組入銘柄が上位に。
- ☆国別構成比: 日本・アメリカが約 2 割で 1・2 位。
新興国ではブラジル・南ア・メキシコ・インドなどが上位に。中国は割高感などから低位。
- ☆業種別構成比: 情報技術から金融まで 6 業種が 15~12%の比率。全体的に好バランス。
半年前に比べた特徴: 素材・エネルギー・資本財などの景気循環株が減少し、生活必需品・通信などの安定成長株が増加。防衛的な方向に。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

資産運用の必要性

＜心豊かな生活を送るための資産運用＞

ユニオン投信株式会社 代表取締役
田子 慶紀



「ユニオンファンド」受益者の皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年は世界中、特に先進各国において“100年に一度”と言われた「金融危機」の大嵐が残した傷跡の修復作業に終始した年となりました。

その様な環境下におきまして「ユニオンファンド」は昨年一年間で50.7%上昇という成績を残すことが出来ました。これは、“安い所”を買うことが“投資”の基本であるとして積極果敢に投資行動を行った結果です。

さて、今年はどのような相場展開が待ち受けているのでしょうか？

それは“神のみぞ知る世界”であり、誰にも分かりません。しかし、的確な運用方針の基で投資行動を実践することによって“世界経済の成長”を享受することが可能であると考えます。

昨年は“どん底”からの大きな上昇の波をしっかりと捉えることが出来ました。今年は昨年のような大きな波を期待することは難しいと思います。まさに「ユニオンファンド」の“真価”が問われる年になると思われま

弊社では受益者の皆様からお預かりしている資金を、必要とされている場所へ働きに出し、世界経済の成長を“後押し”して参る所存でございます。そして、昨年の運用結果が“フロック”だったと言われぬよう“成果”を残す努力をしていきます。

本年も受益者の皆様と共に歩んで参ります。変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

豊かな個人生活を追求して

私たちは日々、より良い生活を求めて生きています。現在でこそあらゆるモノが溢れ、一切不自由な生活を強いられず、豊かな生活を営んでいる我々日本人ですが、その源を振り返って見ましょう。

その原点は第二次世界大戦の敗戦(昭和20年、1945年)で国内が焦土と化した所からではないかと思ひます。何もかもが戦火で灰になってしまった“無”の世界でしたが、確かなことは命からがら生き残った人々の生活が続いていくということでした。

昭和30年(1955年)から始まったとされる「高度経済成長期」では人々が日々の生活を営む上で、有用なモノ、利便性の高いモノへの需要が一気に高まり生産が活発に行われました。同時に、生産、商品開発の活発化に対しては“報酬”として従業員の収入が増加し、金銭的余裕からまたモノを購入する…という循環によって当時の経済成長率は年平均で9.1%という高い伸び率を記録しました。

当時の日本は①勤勉で良質な労働力、②高い貯蓄率、③輸出に有利な円安(固定為替、1USドル=360円)という背景からモノ作りのために設備投資が必要となり旺盛な資金需要が発生し“高金利時代”が続いていました。

「高度経済成長期」のもとでの高金利時代では、郵便局の定額貯金に10年も置いておけば2倍になった時代です。

一生懸命働いて給料を稼ぎ、同時に“生活必需品の購入”が盛んに行われていた時代でした。まさにその当時は、毎日汗水流して働くことで“豊かな生活”をもたらせていたわけです。

高度経済成長期の終息と共に、次に求められたのが“精神的な豊かさ”や“生活の質の向上”でした。また、ユビキタス時代の到来とともにパソコンのボタンを一つ押すだけで膨大な情報が得られるようになり、消費者の商品知識が向上し、価格面や効率性、利便性などの飽くなき追求が始まったわけです。

このように日本経済が成熟化する中で、個人の価値観や日々の生活、生き方なども大きな変化をもたらしました。

“多様化”した生き方の中で

バブル崩壊前までは既に出て上がっていた“人生の道筋”をたどり歩いていけば、そこそこの生活が保障されてきました。しかし、バブル崩壊後は生活や生き方の変化、すなわち、結婚や就職、家庭、居住などに対する多

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

様な生き方が出て来ました。

では、“人生が多様化”すると何が必要になるのでしょうか？

それは、一人ひとりが自分の意思で自分の生き方を決めて行くことです。要するに何をやるのも自由になったことです。

最近では“自助努力”、“自己責任”という言葉が頻繁に見掛けるようになりました。取り分け“資産運用”面でよく使われます。

この“資産”とは“おカネ”だけではありません。①研修に参加したり資格を取得して仕事の“スキルアップ”を図ったり、②“キャリア”を積んだり、③家族を含めた“人間関係”を深めたり…あらゆるものが含まれます。

このような、多様な“資産”に対してはその“運用”が必要となります。しかし、一日 24 時間という限られた中であらゆる資産を運用するには時間が足りません。

そこで、他人に任せられる“運用”と自分でしか出来ない“運用”を明確に分け、それぞれを独自に行うことで時間を有効に利用することが求められます。

「時間的余裕のある生活」を手に入れることは、日々の暮らしの中でとても大切なことです。“急がば回れ”という格言の通り、何事も性急に結果を求めるのではなく、余裕を持った資産運用が日々の暮らしを営む上で最終的に良い結果をもたらす、と考える次第でございます。

弊社は「ユニオンファンド」を通じて、皆様が余裕のある生活を送っていただくために、資金面の資産運用を行って参ります。後はご自身でしか出来ない“資産運用”に力を注ぎ、“心豊かな生活”を送っていただくことを願っています。

平成 22 年 1 月 8 日記

『ユニオンファンド』のリスク

一 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。一

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの方式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」、「流動性リスク」、「信用リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」などがあります。

『ユニオンファンド』の手数料

一 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手数料等および税金」をご覧ください。一

【申込手数料】 … お申込みにあたって弊社にお支払いいただく手数料はありません。

※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

【換金手数料】 … ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いいただく手数料はありません。

【信託報酬】 … 総資産総額に年 0.84% (税抜き 年 0.8%) の率を乗じて得た額です。

毎日、当ファンドの投資信託財産より控除されます。

[実質的な信託報酬※ 信託財産の純資産総額に対して年 1.9%±0.3% (概算)]

※『ユニオンファンド』は他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。

【信託財産留保金】 … 信託財産留保金はありません。

【その他の費用】 … 『ユニオンファンド』に組み入れるファンドを売買する際に発生する売買手数料およびこれにかかる消費税に相当する額は投資信託財産より控除されます。

※実際の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

◆ 業務管理部よりお知らせ ◆

◆ 1月の送付書類について ◆

今月はおお客様の“お取引に関する報告書”を二種類お送りいたします。

「取引残高報告書」と「特定口座年間取引報告書」です。各報告書について説明いたします。

「取引残高報告書」

四半期ごとにお取引の内容や残高を記載した報告書です。今回の対象期間は昨年10～12月の報告となります。なお、当該対象期間中にお取引のないお客様でも、昨年12月末時点で残高がある場合には「取引残高報告書」をお送りいたします。

「特定口座年間取引報告書」(特定口座をご利用のお客様対象です。)

特定口座内のお取引における“ファンド売却”による年間の譲渡損益等を記載した報告書です。

この報告書は、確定申告を行う際に必要となる「株式等に係る譲渡所得等の金額の計算明細書」に代わる役割もあり、簡易な確定申告を行うことが可能となります。

なお、昨年のお取引の有無に関わらず、特定口座ご利用の全てのお客様へお送りいたします。

詳細は弊社よりお送りいたします「特定口座年間取引報告書」に口座区分ごとの説明および、報告書の見方についてのご案内を同封しておりますので、内容をご確認ください。

◆ 定期定額購入について ◆

毎月5日(休日の場合は翌営業日)にご指定いただきました金融機関口座より自動引落としされ、8営業日後の基準価額にて購入いたします。なお、“新規申込み”“各種変更”には、締切日がございます。締切日を過ぎて届出書類が弊社へ到着した場合には、ご希望される月からは反映されませんのでご注意ください。

定期定額購入スケジュール

引落開始月	新規申込み 引落口座変更 締切日	金額変更 引落中止 締切日	ご指定の金融機関 口座からの引落日	ファンドご購入日 (約定日)
平成22年2月	締切りました	1月21日(木)	2月5日(金)	2月18日(木)
3月	2月3日(水)	2月18日(木)	3月5日(金)	3月17日(水)
4月	3月3日(水)	3月18日(木)	4月5日(月)	4月15日(木)

以上、ご不明な点などがありましたら、弊社業務管理部(TEL:0263-38-0725)までご連絡ください。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。